

避難生活



避難の流れ

避難のタイミングは、人任せにせず、ラジオ・テレビや行政からの情報、自分の目と耳で確かめた情報を元に、下のフローチャートを参考に判断しましょう。自宅の安全が確保できれば、在宅避難に努めましょう。

現在地の状況を確認 (火災・避難指示など)

危険なし

火災の危険や避難指示がある

一時避難場所 (公園や学校の校庭など)

区内 57ヶ所。一時的に避難して安全を確保するとともに、地域で安否確認などを行う。



広域避難場所 (天王寺公園・大阪城公園)

同時多発火災が発生しているなど、一時避難場所が危険な場合は広域避難場所に一時避難

火災の危険がなくなれば

自宅に被害があるか確認

被害があり
生活できない状態

被害がないか少なく
生活可能な状態

災害時避難所 (学校の講堂など)

区内 20ヶ所。自宅が倒壊、焼失したときなどに、一定期間避難生活を行う。



地域外へ避難 (親戚・友人宅など)

被害の少ない地域への避難も選択肢のひとつです。

在宅避難



自宅から避難するときのチェックポイント

にチェックしよう!

- 火の始末をする。
- ガスの元栓を閉める。
- 電気のブレーカーを落とす。
- 外出中の家族にメモを残す。
- 戸締りをする。
- 非常持ち出し品を持っていく。
- 安全な経路を通り、徒歩で避難する。
- 垂れ下がっている電線などには触らない。

災害時避難所に避難したら

避難所では、多くの人と共同生活を送ることになります。自主防災組織（地域振興会等が母体）が中心になって「避難所運営委員会」を作り、生活のルールや役割を決めていきます。避難している方はみんなつらい思いをしています。お互いを思いやり、**「自分たちのことは自分で」**を基本に協力しましょう。

- 困っている人がいたら助けましょう。
- 生活のルールや役割を守りましょう。
- 周りの人への心配りをしましょう。
- 日常生活に戻れるよう考えましょう。



多様なニーズへの配慮を

避難所の運営には、高齢者や障がい者、外国人避難者などへのきめ細やかな配慮が必要です。

女性や子育て中の方への配慮として、女性専用の物干し場や更衣室、授乳室の設置などといった視点も欠かせません。

それぞれの視点が活かせるよう、高齢者や障がい者、外国人、女性も積極的に避難所の運営に参加しましょう。



ペットと災害

避難する方の中にはペットが苦手な人もいます。避難時には飼い主の責任でペットを管理し、避難所内の飼育ルールを決めて、それを守るようにしましょう。

飼い主の責任として、日ごろからペットのしつけ、健康管理、避難用具の確保、預け先の確保に努めましょう。



災害時避難所は物資と情報の拠点

災害が発生してしばらくすると、各地からの支援物資が届いたり、届かない場合でもどこに行けばよいかの情報が集まったりと、避難所は物資と情報の拠点となります。

在宅避難者にとっても、支援物資や行政からの情報を得る場所になります。マンションで在宅避難している場合は、マンション単位で代表者などが物資や情報をまとめて受け取りに行きましょう。